

第2章
3 施策領域

教育

あるべき姿(概ね30年後)

- 一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりが実現しています。

目指す姿(10年後)

- 子供が育つ環境にかかわらず、県内全ての乳幼児に対し、「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方が幼稚園・保育所・認定こども園等で共通認識され、一人一人の子供が興味・関心に基づいてやりたいことを自由に選択できるような環境の中で、子供たちには、生涯にわたって主体的に学び続けるための基盤が培われています。
- これまでの「知識ベースの学び」に加え、「コンピテンシーの育成を目指した主体的な学びを促す教育活動」を積極的に推進する「学びの変革」が定着し、全ての子供たちに、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力が着実に身に付いています。
- 家庭の経済的事情や障害の有無等にかかわらず、子供たち一人一人が生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高め、多様な個性・能力を更に伸ばし生かしていく教育が実現しています。
- 各学校段階において、インターネットやデジタル機器・技術に関する知識や利活用する能力等が育成されるなど、日本で最高レベルのデジタルリテラシーを身に付けることのできる教育が実現しています。
- 県内に多彩な分野の高等教育機関が充実し、それぞれの大学が持つ強みや特色を生かしつつ、各大学の連携・協力のもと、これからの社会で求められる普遍的で汎用性の高い知識・スキルを学び、身に付けることができる、魅力ある高等教育環境が構築され、県内外から多様な人々が集まっています。

指標

「遊び 学び 育つひろしまっ子!」推進プランに掲げる5つの力が育まれている年長児の割合

現状値	10年後の目標値(R12)
73.2% (R1)	80%
小: 71.1% 中: 64.6% 高: 64.3% (R1)	小: 中: 80% 高:
小: 13.9% 中: 18.8% (R1)	10%以下
小: 18位(74.6%) 中: 23位(66.1%) 高: 40位(65.2%) (H30)	いずれも 全国3位以内
1,187人 (R1)	0人

「主体的な学び」が定着している児童生徒の割合※1

全国学力・学習状況調査における正答率40%未満の児童生徒の割合

「児童生徒のデジタル活用を指導する能力」の全国順位

大学等進学時における転出超過数

※1 現在、課題発見・解決学習推進プロジェクトに係る研究開発校において、生徒の資質・能力を見取るためのルーブリック(評価基準)の開発や資質・能力の評価方法の研究等を行っており、この研究成果に基づき、各高等学校で設定したコンピテンシーを身に付けた生徒の割合も重要な指標とする。(R3~)

用語解説 コンピテンシー…単なる知識や技術だけでなく、態度などを含む様々な心理的、社会的なリソース(主体性・積極性・協調性・協働性・回復力等)を活用して、複雑な要求(課題)に対応することができる実践能力や行動特性。
グローバルマインド…地球規模の広い視野で情報を捉え、文化や価値観の違いを認識し、自分自身の信念や価値観を明確にしながら、多様な人と協働できる価値観。
STEAM教育…科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、教養(Art)、数学(Mathematics)を活用した文理融合の教育。

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、その後の学校教育における生活や学習の基盤となる役割を担う重要なものです。
- 先行き不透明な社会においては、学校で学んだ知識や技能を定型的に適用して解決できる問題は少なくなり、「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」がますます重要となります。
- 子供たち一人一人の能力や適性、興味・関心に応じ、誰一人取り残すことのない個別最適化された学びが、より一層求められています。
- 次代を担う子供が、生まれ育った環境によって左右されることなく、また、障害の有無にかかわらず、健やかに育ち、夢や希望、高い倫理観や豊かな人間性を持ち、意欲にあふれ自立した若者へと成長し誰もが充実した生活を送る上で、また、活力ある社会を実現する上で、自らの能力を伸長し、社会において発揮する機会は、経済的・社会的な事情にかかわらず、誰もが等しく与えられるべきものです。
- デジタル技術の発展により、定型的業務や数値的に表現可能な程度の知的業務はAIに代替可能になると言われており、これからの社会においては、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力などを備えた人材を育成することが求められています。
- 人生100年時代を迎え、「教育・仕事・老後」という3ステージによる単線型の人生ではなく、転職や学び直しを前提としたマルチステージの人生に変化することが見込まれます。
- 幼児教育無償化、高等学校等就学支援金制度の拡充、高等教育の修学支援新制度の創設等、保育料・授業料等負担軽減の動きの中、公教育の一翼を担う私立学校が、社会の変化や教育ニーズに対応した教育を行うことで県民に多様な教育機会を提供することが重要です。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

- 1 乳幼児教育・保育の充実**
乳幼児教育支援センターを拠点として、各種研修の充実や幼児教育アドバイザーによる訪問・助言等により園・所等における教育・保育内容の充実や、子育てに関する啓発資料等の拡充、効果的な情報提供などによる保護者の子育てに対する自信や安心感の醸成に向けた家庭教育の支援などに取り組みます。
- 2 学びの変革の推進**
多様な学習機会と場の提供等を通じた「個別最適な学び」を推進するとともに、デジタル技術の急速な進展を踏まえ、あらゆる教育活動において日常的にデジタル機器等を活用する環境を整え、情報モラルを含めた子供たちのデジタルリテラシーの向上を図るほか、デジタル技術の効果的な活用等を通じた、子供たちの主体的な学びを促す教育活動の充実や、グローバルマインドの涵養(かんよう)を図る教育環境の整備などにより、「学びの変革」の更なる加速に取り組みます。
- 3 高等教育の充実**
県内企業や市町、国際機関、大学等の恒常的な連携拠点「プラットフォーム」を構築し、産業界等のニーズを踏まえた実践的な教育の充実を図るとともに、遠隔講義システムの導入を通じた県内大学のネットワーク化を進め、県内全ての大学において、STEAM教育等を学び、思考・判断の基盤となる知識やデジタルリテラシーなどを身に付けることができる環境整備に取り組みます。
- 4 学びのセーフティネットの構築**
学習のつまずき・外国人児童生徒に対する日本語指導などの学習支援、経済的支援、さらには不登校や高校中退など、多様な観点からのニーズに対応した教育機会の提供に取り組みます。
- 5 特別支援教育の充実**
特別な支援を必要とする子供たち一人一人が、自らの個性や能力を生かしつつ自立し、社会参加を図る環境づくりに取り組みます。
- 6 キャリア教育・職業教育の推進**
子供たちの将来的な社会的・職業的自立に向けて、各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育や、地域や産業界と連携した職業教育の充実に取り組みます。
- 7 リカレント教育の充実**
急速なデジタル技術の進展などにより高まる企業の人材育成ニーズに対応するとともに、労働期間が長期化することが見込まれるため、就労と教育の新しいサイクルによる、社会人のスキルアップや個人の学び直しなど、リカレント教育の充実を図ります。

学びのセーフティネット…家庭の経済的事情等にかかわらず、全ての子供の能力と可能性を最大限高められる教育を実現することを目的として実施される方策・制度。
リカレント教育…社会人が自己啓発や学び直しを行うこと、大学等で勉学に専念する場合や通信教育・オンライン講座の受講、セミナーへの参加など、その方法は様々。人生100年時代を見据え、年齢に関わりなく学び直しを行い、能力を高めることによって、自ら主体的にキャリアを形成することや、AI等の技術革新に対応したスキルや能力を身に付けることの重要性が高まっている。